

【教育目標】

「主体的に行動する」「すすんで貢献する」「多様性を理解する」「新たな考えを創造する」

令和6年度第3号

令和6年6月9日

「高島なかよし通り学びのエリア」  
高島幼稚園・高島第二小学校・高島第二中学校

◆生徒の様子は学校ホームページをご覧ください



# 高二中だより



〒175-0082 東京都板橋区高島平 2-24-1

板橋区立高島第二中学校

Tel 03 (3936) 1591 Fax 03 (3935) 6441

校長 小泉 良太

## 揺籃の学び舎

副校長 後藤 幸一



6月19日(水)から3日間、1学期期末考査が実施されます。7年生にとっては中学校で初めての定期考査です。8・9年生を含め、自分のベストを尽くし、良い成果をあげることを期待しています。

さて、自分が以前勤務していた中学校の校歌の1番に「……ああ揺籃の学び舎は、……」という歌詞がありました。揺籃(ようらん)とはゆりかごのことで、転じて物事が発展する初めの段階を指す用語です。試験勉強に例えると、最初は何もわからないことでも、徐々に進歩し、理解できるようになる様子を表しているように思います。

私は数学の教員時代、よく定期考査前に質問教室を開きました。7年生の初めに、ある生徒とこんなやりとりをしました。

「どこがわからないの?」「全部!」

そこで、時間をとってわからないところを細かくたどってみました。すると通分ができない、小数の計算が不安である、さらに九九ができない、……わかるところまで戻ってみた結果、「算数の復習からやってみようか?」と提案することにしました。その日から算数と数学の「二刀流」がスタートしました。やがて算数の計算が一つ、また一つとできるようになり、7年生の終わりには少しずつ数学の計算にも挑戦しようという意欲がわきました。

最終的にその生徒はサポート校から大学に進学し、コンピューター関係の仕事に就きました。この例を考えると、中学生の皆さんにとっては、まだまだ「揺籃」の時期だと感じます。そしてこれから芽が出る時期を迎えます。黎明期(れいめいき)、萌芽期(ぼうがき)などとも呼ばれます。理解するまでの時間は人によって異なります。焦ることなく、徐々に実力を高めていってください。

そういえば、この校歌の2番には「……汲めども尽きぬ 知の泉、……」という歌詞があります。皆さんの持っている可能性は無限であるという例えかもしれません。